

東京国立 博物館 ニュース



特別展 Information

「フランス人間国宝展」「運慶」

「仁和寺と御室派のみほとけ
―天平と真言密教の名宝―」

「アラビアの道―サウジアラビア王国の至宝―」……2

トーハクで日本仏像史……4

「博物館でアジアの旅 マジカル・アジア」……5

3館のお目当て特集展示……6

総合文化展 Pick up! (本館/東洋館/平成館/法隆寺宝物館/黒田記念館)……7、11
保存と修理情報④……9/みどりのライオン(教育普及事業)……12、13/トーハクくんのなるほトーハク……13
イベント&インフォメーション……14、15/2017年10・11月の展示 催し物……16

今号の名品

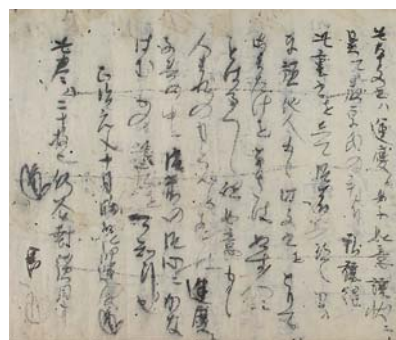
「文殊菩薩騎獅像
および侍者立像」

3ページに
掲載してるほ!

興福寺中金堂
再建記念特別展
「運慶」見どころは彫刻だけじゃない！
運慶ゆかりの書にも注目

「運慶」展は仏像の展覧会ですが、運慶にかかわる書跡も展示しています。

第1章の「運慶願経」は運慶が法華経8巻の書写のお金を負担して、同僚の仏師にも縁を結ばせたもの。運慶と快慶の名前が登場します。第2章の「法眼運慶置文」は運慶直筆の書です。娘の如意が貴族の養女になって荘園をもらった時、証文の裏に書いたものです。娘に不始末があった時は運慶の別の子どもが荘園を引き継ぐと記しています。その結末は会場でご覧ください。（浅見龍介）



◎法眼運慶置文
(尊勝寺領近江国香庄文書のうち)

運慶筆 鎌倉時代・正治元年(1199)
東京・早稲田大学図書館蔵
左端の上の花押(サイン)は運慶のもの。
証文の継ぎ目に書いています



証文の中には「運慶」
の名前も見えます
(部分)

関連イベント

記念講演会①「興福寺と運慶—特に北円堂の諸像をめぐる—」

日時:10月1日(日) 13:30~15:00(13:00開場) 講師:多川俊映(法相宗大本山興福寺貫首)

記念講演会②「運慶展 最新調査報告」

日時:10月28日(土) 13:30~15:00(13:00開場) 講師:浅見龍介(当館企画課長)

会場:平成館大講堂 定員:各日380名(当日11:30より、大講堂前にて指定席券を配布。1人2枚まで) 聴講無料(ただし、本展覧会の観覧券が必要。半券でも可)

【開催概要】観覧料:一般1,600円(1,300円)、大学生1,200円(900円)、高校生900円(600円)
*()内は20名以上の団体料金。中学生以下無料 *障がい者とその介護者1名は無料(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください) / お問い合わせ:ハローダイヤル 03-5777-8600 / 展覧会公式サイト <http://unkei2017.jp/>

「アラビアの道」
—サウジアラビア王国の至宝—日本初! サウジアラビア王国の
至宝が一堂に集結

古代より交易路が張り巡らされ、人々と諸文明が行き交ったアラビア半島。その躍動的な文化を示すサウジアラビア王国の至宝を日本で初めて公開します。100万年以上前にさかのぼるアジア最初の石器、5000年前に砂漠に立てられた人形石柱、ヘレニズム時代やローマ時代に賑わった古代都市からの出土品、イスラームの聖地カバ神殿で17世紀に使われた扉、サウジアラビア初代国王の遺品(20世紀)など、約400の貴重な文化財を通して、アラビア半島の知られざる歴史をお楽しみください。(小野塚拓造)

人形石柱

前3500~前2500年頃
カルヤト・カファ出土 サウジアラビア国立博物館蔵
類品がアラビア半島各地で見つかり、人々の活動の広さを示しています

【開催概要】観覧料:総合文化展の料金でご覧いただけます/
お問い合わせ:ハローダイヤル 03-5777-8600

2018年
1月23日(火)
▼
3月18日(日)
表慶館

「フランス人間国宝展」

期待の作家、
次のフランス人間国宝候補に注目

9月12日(火)
▼
11月26日(日)
表慶館

希少な伝統工芸の最高技能者に与えられる称号である「フランス人間国宝」。この認定にあたっては、15年以上の実績を伴う熟達した技と、革新性にあふれた創造性、そして次世代へ技術を継承できる人徳が求められます。

本展で紹介している15作家のうち、壁紙作家と真鍮細工作家の二人はまだこの称号を得てはいませんが、しかし両名とも高い技術力と革新性から、本展出品作家に選ばれました。

「素材を成形し、日々それに立ち向かうことが自身を形作る」と語る真鍮細工作家ル・ベール氏。代表作である「無限」のもつ、艶やかでしなやかに鍛えあげられた真鍮の質感に、作家の真摯な制作姿勢を感じることができるのではないのでしょうか。(熊谷美和)



無限

ナタナエル・ル・ベール 2014年
個人蔵 © Nathanaël LE BERRE
表裏の色を違い極限まで薄く鍛えたデザインに高い技術力が現れています

【開催概要】観覧料:一般1,400円(1,100円)、大学生1,000円(700円)、高校生600円(300円)
*()内は20名以上の団体料金。中学生以下無料 *障がい者とその介護者1名は無料(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください) / お問い合わせ:ハローダイヤル 03-5777-8600 / 展覧会公式サイト <http://www.fr-treasures.jp/>

特別展

「仁和寺と
御室派のみほとけ」

—天平と真言密教の名宝—

仁和寺と御室派の名宝、ずらり

2018年
1月16日(火)
▼
3月11日(日)
平成館
特別展示室

京都の北西にあって、御室様で知られる仁和寺は、光孝天皇が仁和2年(886)に建立を発願し、次代の宇多天皇が仁和4年(888)に完成させた真言密教の寺院です。歴代天皇の厚い帰依を受けたことから、すぐれた文化財が伝わり、創建時の本尊である国宝「阿彌陀如来坐像」は、日本彫刻史上の名品です。また、国宝「高倉天皇宸翰消息」(展示は~2月12日(月・休))をはじめとした皇族の書も多く残ります。本展覧会では、これら仁和寺に伝わる名品のほかに、仁和寺を総本山とする御室派寺院に伝わる文化財も紹介します。天平彫刻の最高傑作の一つとして知られる葛井寺の国宝「千手観音菩薩坐像」(展示は2月14日(水)~)のほか、多くの秘仏が見られる貴重な機会になります。

また、仁和寺の観音堂再現コーナーでは、33体の安置仏と壁画の高精細画像で、一般には立ち入ることのできない、修行の場である観音堂の厳かな空気を体感していただきます。(丸山士郎)



◎阿彌陀如来坐像

平安時代・仁和4年(888)
京都・仁和寺蔵
仁和寺創建当時の本尊。穏やかな表情にご注目ください

【開催概要】観覧料:一般1,600円(1,400円/1,300円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円) * ()内は前売/20名以上の団体料金。中学生以下無料 *障がい者とその介護者1名は無料(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください) *前売券は11月1日(水)~2018年1月15日(月)、東京国立博物館正門チケット売場(窓口、開館日のみ)、展覧会公式サイト、主要プレイガイドほかにて販売 / お問い合わせ:ハローダイヤル 03-5777-8600 / 展覧会公式サイト <http://ninnaji2018.com/>

今号の名品

2017年10-11月号

もんじゅ ぼさつ きし ぞう
重文 文殊菩薩騎獅像
および侍者立像
8月29日(火)～12月3日(日)
本館14室

運慶の孫・康円、五人五様の個性を表しきった円熟期



于闐王(部分)

獅子に乗る文殊菩薩が、4人の従者を伴って進む姿を表します。絵画作品では、揃って海上を行く様子が描かれることも多く、こうした文殊五尊を「渡海文殊」と呼んでいます。本作は、文殊菩薩や従者たちにももちろん、文殊の乗る獅子やその台座、光背まで制作当時のまま残る、大変貴重なものです。しかも、獅子に記された銘文や納入品から、運慶の孫である康円(1207?)という仏師が文永10年(1273)に造ったことがわかる点も重要で、鎌倉時代の彫刻を知るうえでも見逃せない作品といえます。

文殊五尊として一揃いの作品です。文殊菩薩の前方に配されるのは、一団を先導するように合掌しながら文殊を振り返る善財童子。そして、獅子の手綱をとり、赤ら顔で踏ん張る于闐王は、ブーツなど異国風の装束を身に着けます。後方にひかえるのは、仏陀波利三蔵と大聖老人。仏陀波利は、右肩を露わにしてインド風に袈裟をまとい、大聖老人は頭巾を被ってにこやかにほえみますが、本来は文殊の化身である大聖老人が、仏陀波利を自身の聖地である中国の五台山へ導く場面を表しています。子どもから老人まで、個性豊かな

を生み出しました。インドでは少年の姿に表される文殊菩薩も、少し幼い顔立ちながら、わずかにひそめた眉と切れ長のまなざしに、知恵の仏ならではの聡明さがうかがえるようです。さらに、バランスのとれた体軀や、写実的な衣の襞など、祖父である運慶の作風を継承し、自分なりにこなれた表現へと消化したところに、当時67歳であった康円の円熟した個性を見ることができるよう。いつもは群像として展示していますが、このたびの特集(→4ページ)では1体ずつじっくりご覧いただけます。



物をとともわかりやすく造り分けています。目に水晶板を嵌めこみ、潤いのある瞳を表現する玉眼の技法も用いることで、生き生きとした表情



善財童子(部分)

もんじゅ ぼさつ きし ぞう
◎文殊菩薩騎獅像および侍者立像
康円作 奈良・興福寺伝来
鎌倉時代・文永10年(1273)



大聖老人



于闐王

文殊菩薩



善財童子



仏陀波利三蔵

る展示方法をとりました。普段の「群像」としての魅力とは異なる「個」の魅力を、見つけにきてください。

(西木政統)

★「東京国立博物館ニュース」名品スタンプラリー
★10・11月のスタンプ設置場所…本館インフォメーション
※スタンプ帳の配布は終了しました

西木研究員
が
解説



トーハクで 日本仏像史

「運慶」展(⇒2ページ)に集結した、天才仏師・運慶による仏像の数々。これらの傑作が生まれるまでに、日本の仏像はどのような流れをたどってきたのでしょうか？黎明期から運慶にいたるまで、日本の仏像彫刻史をトーハクの所蔵品を通じてご紹介します。



飛鳥時代@法隆寺宝物館

日本に仏像が
やってきた！

◎如来坐像

飛鳥時代・7世紀 法隆寺宝物館第2室／通年

6世紀頃の中国や朝鮮半島の仏像に基づいて、日本でも仏像が造られるようになりました。頭と手足が大きく、衣の襷が左右対称に美しく整えられた、神秘的な姿が特徴です。

奈良時代@本館1室

目指すはリアル！

◎日光菩薩坐像

京都・金輪寺、京都・高山寺旧蔵

奈良時代・8世紀

本館1室／～2018年2月4日(日)

体のバランスが整い、肉体や衣に質感の表現が追求されます。この時期、土で成形する塑像や、漆を用いた乾漆像が造られますが、ともに手本となったのは中国・唐時代(7～8世紀頃)の仏像でした。



平安時代@本館11室

鑿が生み出す
木彫の世界

十一面観音菩薩立像

平安時代・9世紀

本館11室／～10月22日(日)

日本に豊富な木が仏像制作の材料に選ばれ、樹木に対する古来の信仰を背景に各地へ普及しました。鑿を駆使した鋭く美しい表現が求められ、深く刻まれた衣の襷が見どころの一つです。

特集

「運慶の後継者たち
—康円と善派を中心に—」

鎌倉時代初頭@特別展

新時代の幕開け！
運慶登場

奈良を拠点に活動していた仏師のなかに、颯爽と現れたのが運慶です。古代(8～9世紀)の仏像に学んだ、力強く迫真的な表現は、後世まで続く慶派仏師の規範となりました。

特別展「運慶」9月26日(火)
～11月26日(日)⇒2ページ

鎌倉時代@本館14室

「運慶」を受け継ぐ
仏師たち

◎東方天眷属立像・南方天眷属立像 (四天王眷属のうち)

康円作 鎌倉時代・文永4年(1267)

運慶には、仏師として活躍した息子が6人いました。それぞれ運慶とともに工房を支えましたが、孫の世代にも着実にその作風は受け継がれています。康円(1207～?)もその一人で、的確な写実を基調としながら、より繊細で親しみやすい表現を目指しました。

特集「運慶の後継者たち—康円と善派を中心に—」
～12月3日(日)／本館14室

◎東方天眷属立像

◎南方天眷属立像

12月3日(日)まで
展示中



博物館でアジアの旅



マジカル・アジア

秋の恒例企画「博物館でアジアの旅」。
今年のテーマ「マジカル・アジア」にちなんで、
展示中の3つの特集から、見逃しがちな
マジカルポイントを解説します。

9月5日(火)

10月15日(日)

特集

「唐三彩」
とうさんさい

東洋館5室



さんさいらくだ
三彩駱駝

中国 唐時代・7～8世紀 横河民輔氏寄贈

荷物を運ぶのに重宝したラクダ。よくみると、背中の荷物は獣の顔！ このように、墓に納められた俑にはどこか妖しい異界の雰囲気が漂っています。

見逃し厳禁！
マジカルなポイントを探そう

特集

「アジアの祈り」
あしあのいのり

東洋館13室



せんけん
銭剣

中国 清時代・19世紀

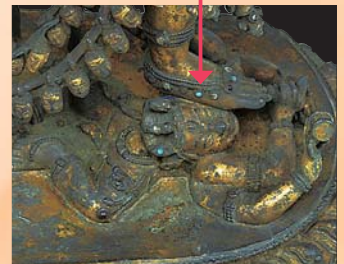
農商務省北海道事業管理局寄贈

邪をはらう力があると考えられた剣。清時代のお金、康熙通宝（一部、順治通宝）を赤い糸でつないでいます。銅銭の丸い形と四角い孔（天円地方）に、靈力を求めています。



特集「チベットの
仏像と密教の世界」
ぶつぞう みつきょう せかい

東洋館12室



ふ ほ ぶつりゅうぞう
チャクラサンヴァラ父母仏立像

中国・チベットまたはネパール 15～16世紀 服部七兵衛氏寄贈

両足で邪鬼を踏むのは日本の四天王でも一般的ですが、よく見ると左足の下は4本腕の男性、右足の下は女性。実はヒンドゥー教のシヴァ神夫婦で、仏の偉大さを象徴する表現です。

マークは、「博物館でアジアの旅」関連作品です。展示室でこのマークを探してみてください。



時間＝10：00～16：00

料金＝入館料のみでご覧いただけます

庭園入口＝レストランゆりのき脇、または平成館と本館の間

*荒天により中止になる場合があります。

本館北側の庭園を期間限定で開放します。期間中は、色鮮やかなイチョウやカエデとともに、庭園に点在する茶室をご覧ください（茶室内部は非公開）。庭園内には、ベンチもあるので、美しい庭園を眺めながらゆったりとした時間をお過ごしください。茶室の一つ九条館脇には、2009年に修理のため撤去した「大燈籠」（4代清水六兵衛作 明治41年（1908）5代清水六兵衛氏寄贈）が、戻ってきました。その迫力のある姿も合わせてご覧ください。

秋の庭園
開放
10月24日(火)
12月3日(日)

本館



室町時代のやまと絵——絵師と作品——

特別1室・特別2室 10月24日(火)～12月3日(日)

この秋は…

伝統と革新の室町やまと絵を見る！

室町時代の美術と聞いて、皆さんはどのような印象をおもちでしょうか。足利義満の北山文化や足利義政の東山文化。あるいは雪舟の水墨画などでしょうか。実はこの時代、歴史の教科書などではあまり触れられていませんが、伝統的な技法・主題を継承しつつも、革新的で華やかなやまと絵作品が数多く制作されています。この特集は、室町時代に活躍したやまと絵師たちの画業をたどるとともに、その豊かな表現世界に光をあてるものです。

(土屋貴裕)



◎融通念仏縁起絵巻 巻上

六角寂斎・粟田口隆光・藤原光国・藤原行広他筆 室町時代・応永24年(1417) 京都・清凉寺藏
*展示期間: 前期10月24日(火)～11月12日(日)

6人の絵師たちによって描かれた室町時代やまと絵の記念碑的な作品。この段はそのうちの一人、藤原(土佐)行広が手がけました。

東洋館

中国書画精華——日本人のまなざし——

8室 10月17日(火)～12月10日(日)

この秋は…

日本人が愛した中国書画を見る！

日本にもたらされた中国の書画は、日本人の感性に基づいて鑑賞され、日本の芸術家の創作の源ともなってきました。鎌倉・室町時代には、禅宗と共に宋・元時代の書画が数多く伝わり、書院や茶室において日本の趣味に基づく新たな鑑賞法のもとに親しまれ、狩野派・南画家など江戸時代の画家たちは、明・清時代の絵画も積極的に学習してきました。明治時代以降は、より多様な中国書画が流入し、財界人・文化人によって優れたコレクションが形成されました。日本人を魅了した中国書画の名品の数々をお楽しみください。

(植松瑞希)



(部分)

◎五龍図巻

伝陳容筆
中国 南宋時代・13世紀
渦を巻く雲のなかから姿を現す5匹の龍。墨一色で迫力ある動きを表現した陳容の龍図は、日本画家の憧れでした。



(部分)

◎行書虹泉詩巻

米芾筆
中国 北宋時代・崇寧5年(1106)
北宋時代を代表する書家・米芾の最晩年の傑作。米芾の行書・草書は、日本の書家たちの大切なお手本の一つです。

芸術の秋、何を見る？

3館のお目当て 特集展示



芸術の秋にふさわしく、この時期、トーハクでは見応えのある充実した特集が目白押しです。

ここでは本館、東洋館、平成館から選りすぐりの特集をご紹介します。



(部分)

◎松図屏風

伝土佐光信筆 室町時代・16世紀

金箔を貼りつめた総金地に松と岩のみを描いています。伝統的なやまと絵の技法に基づきながらも、安土桃山時代に流行する大画面の金碧障壁画の源流とも言える作例です。

平成館

清朝末期の光景——小川一真の北京城写真——

企画展示室 9月26日(火)～11月19日(日)

この秋は…

在りし日の清の都を見る！

清朝の都・北京は、皇帝が起居する紫禁城を中心に、城壁で囲まれていたため北京城と呼ばれていました。義和団事件が終結し、光緒帝が慈禧皇太后(西太后)とともに北京城を離れていた明治34年(1901)、東京帝国大学(現・東京大学)は紫禁城の建築調査を行いました。この調査に当時日本で最も活躍していた写真師の一人、小川一真(1860～1929)が同行し、「北京城写真」と呼ばれる一群の写真を撮影しました。

本展示では、前期(9月26日(火)～10月22日(日))に北京城の南北の中軸線に沿って見る風景と清朝の離宮・頤和園の姿を、後期(10月24日(火)～11月19日(日))に紫禁城と北京城の名所旧跡をご紹介します。(関紀子)



太和殿内四天柱

小川一真撮影 明治34年・光緒27年(1901) *展示期間: 10月24日(火)～11月19日(日)

太和殿は紫禁城で皇帝が公の式典に臨む建物。皇帝の玉座の周囲に立つ柱を抱える辮髪の男性の姿です。

永定門

小川一真撮影 明治34年・光緒27年(1901) *展示期間: 9月26日(火)～10月22日(日)
北京城外城の南門。現在の建物は今世紀に再建されたもので、清朝当時の姿を知る貴重な写真です。

Pick up!

本館

立体感のある色使いにご注目

国宝

十六羅漢像
(第八尊者・第十二尊者)

10月24日(火)～11月19日(日)

2室 国宝室



●十六羅漢像
(第八尊者)

平安時代・11世紀

今回展示する第八尊者は、このセットの中でも最も色使いの美しい作例の一つです

当館所蔵の十六羅漢像は現存する最古にして最高傑作として知られる名品です。今回はそのうち、第八尊者と第十二尊者の像を展示します。十六羅漢とは、お釈迦様の命により、お釈迦様の滅後の仏法護持と衆生救済を託されたとされる16人の聖者のこと。日本では平安時代・11世紀頃から造形化されるようになりました。

本図は明度の高い顔料を絹の裏から施すことで穏やかな色を生み出し、さらに絹の表面から部分的に同系色の顔料を施すことで立体感を出す工夫が駆使されています。こうした色使いには温和で品格ある造形を理想とした、当時の平安貴族の美意識がよく表れているといえます。(沖松健次郎)

本館

工芸技術を駆使した甲冑の傑作

重文

檜鳥糸肩赤威胴丸

11月19日(日)

5・6室 武士の装い



◎檜鳥糸肩赤威胴丸

室町時代・15世紀
秋田一季氏寄贈

陸奥・三春藩主であった秋田家で長く大切に伝えられ、ご寄贈をいただいた胴丸です

身体を丸く包んで右脇で引き合わせ、大腿部を守る草摺を細かく分けて動きやすくした甲冑です。こうした胴丸は室町時代には上級武士に用いられ、兜と袖がついたものがみられます。「檜鳥(または松皮組)」と称される紺糸に赤糸を斜めに打ち込んだ組糸、桐唐草文などの文様を精緻な彫金で表した金具など、さまざまな分野の工芸技術が結集しています。個々の部分の華やかさは互いに違和感を与えず、一領の甲冑の中で調和し、格調の高さが生まれています。(酒井元樹)

本館

これぞ江戸琳派の真骨頂

四季花鳥図巻 巻下

10月31日(火)～12月17日(日)

8室 書画の展開



(部分)

四季花鳥図巻 巻下

酒井抱一筆
江戸時代・
文化15年(1818)

下巻は秋より始まりやがて冬の草花へと移行します

ものとして江戸琳派と呼ばれるようになります。その真骨頂ともいえる記念碑的な作品です。(金井裕子)

横長の画面を生かした色鮮やかな画卷です。月から降り注ぐように枝を伸ばす萩、野から立ち上がるような朝顔など、次々と現れる花々や鳥虫を追ううち、自ずと季節を巡ることができます。このとき抱一、58歳。四季や時の移ろいの表現をより重んじるようになる頃です。俳人でもあった抱一が、雨風、月影など自然の風趣を捉えることに感性を研ぎ澄ませ、行き着いたこの新しい表現は、京の宗達や光琳とは異なる

本館

明治期の日本美術史編纂を、トーハクの歴史とともに学ぶ

特集 「明治時代の日本美術史編纂」

10月3日(火)～11月26日(日)

15室 歴史の記録



Histoire de l'art du Japon
(日本美術史)

千九百年巴里万国博覧会臨時博覧会事務局編
明治33年(1900)

『稿本日本帝国美術略史』刊行の前年、パリ万博に出品されたフランス語版です

明治34年(1901)に刊行された『稿本日本帝国美術略史』は、日本で初めての公式の美術史でした。本書はそれまでの文化財調査の蓄積を元にして帝国博物館(当館の前身)が編纂しました。フランス語版が明治33年(1900)のパリ万博に出品され、翌年日本語版が刊行されました。今回の展示では当館に残る『稿本日本帝国美術略史』編纂に関わる記録や写真など歴史資料を通して、美術博物館としての歩み始めた時期の博物館の姿をご紹介します。なお、本展示は今年度の連続講座(→前号12ページ)の関連展示です。(三輪紫都香)

東洋館

名臣の業績を顕彰する

崔忠献墓誌

10室 朝鮮の磨製石器と金属器
10月17日(火)～2018年4月22日(日)

高麗時代に活躍した崔忠献(1149～1219年)の墓誌を、当館では久しぶりに公開します。

当時の高麗は、武力を背景にした「武臣」と呼ばれる人々が政治の実権を握る「武臣政権」の時代でした。最初は武臣同士の争いが絶えなかったのですが、崔忠献はそれを終わらせ、有能な文人をとりたてて政治の安定をもたらしました。崔忠献の死後、長男が跡を継ぎましたが、モンゴル帝国の侵略により、高麗の衰退が始まります。

この墓誌には、高麗の武臣政権の最盛期を築いた人物の業績が刻まれています。(白井克也)



崔忠献墓誌
朝鮮 高麗時代・高宗6年(1219)
周囲に唐草文をめぐる、
2000字余りにわたって業績
が記されています

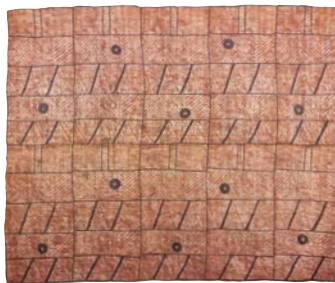
「崔公墓」部分

東洋館

暮らしに欠かせない身近な布

樹皮布(タバ)

13室 アジアの民族文化
10月17日(火)～12月10日(日)



樹皮布(タバ)

メラネシア、フィジー諸島
19世紀後半～20世紀初頭

木の葉の葉脈を図案化した文様が見られます

タバとは、こん棒で樹皮を叩きのぼして作った布のことです。貝や木のナイフで樹木の外皮を剥ぎ取り、外皮の内側にある柔らかい繊維の部分を使って作られ、毛皮とならぶ原始衣料として知られています。大きさによって衣類・寝具・壁掛・敷物などの用途がありました。また、通常、文様が施されていますが、その文様は島や村や家によって異なります。染料にはマングローブのような植物染料や泥土を用いて、文様を表しました。

(猪熊兼樹)

平成館

縄文と古墳、2つの時代に注目

特集 「いわきの考古学」
「貝塚と横穴墓」

考古展示室
9月26日(火)～12月25日(月)

平成29年度考古相互貸借事業による本特集は、いわき市考古資料館が所蔵する名品をみなさまにご紹介します。

福島県いわき市。太平洋に面したこの地域は、縄文時代前期から晩期の貝塚が集中する漁撈が盛んな地域でした。数多く作られた銚や釣針などの漁撈具には目を見張るものがあります。一方、古墳時代には横穴墓が盛行する地域としても著名です。国史跡としても名高い中田横穴墓の壁面には豊かな彩色が施され、豪華な副葬品が納められていました。

いわき市が誇る貝塚と横穴墓から出土した宝ものの、ぜひご覧ください。

(品川欣也)



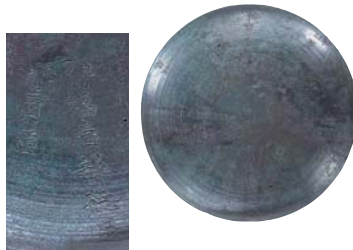
中田横穴墓の奥壁。
葬られた有力者の部屋を、赤と白で
描いた連続三角文が彩ります
写真：いわき市教育委員会

平成館

一人の女官の人生を伝える

重文 伊福吉部徳足比売
骨蔵器蓋

考古展示室
2018年7月1日(日)



「伊福吉部徳足比売臣」部分

◎伊福吉部徳足比売骨蔵器蓋

鳥取市国府町宮下出土 奈良時代・和銅3年(710)
蓋の中心から放射状に16行、合計108文字が刻まれています

和銅元年(708)、一人の女性が亡くなりました。名前は伊福吉部徳足比売。因幡国法美郡(現在の鳥取市周辺)の出身で、藤原宮に采女として仕えたと考えられています。慶雲4年(707)に従七位下の位を授けられています。翌年に亡くなり、和銅3年(710)に出身地周辺に火葬・埋葬されました。彼女が没した和銅元年は和同開珎(2018年7月1日「日」まで考古展示室で展示中)の製造が始まった年。日本が律令国家の形を整えていった頃です。その足跡とともに、彼女の生きた時代にも思いを寄せてみてください。(井出浩正)

Pick up!



◎伎楽面 力士 飛鳥時代・7世紀
怒った表情ですが、どこかユーモラスです

伎楽は仏教の法会などで、歩きながら演じる劇です。内容は詳しくわかりませんが、娯楽性の強いものであったようです。ここで紹介する力士には、乙女にいい寄る不埒者を懲らしめるといった役割があります。額に青筋をたて、目はつり上がり、顔面は幾重にも筋が盛り上がりまします。いかにも武闘系ですが、悪人の顔つきではありません。伎楽面にはさまざまな表情があるので、普段は仏の厳かな顔を追求する仏師たちも、想像をかき立てられたことでしょう。法隆寺宝物館第3室は今回の展示から、毎週金・土曜日の開室になります。ぜひご覧ください。

(丸山士郎)

法隆寺宝物館

毎週金・土曜日に会えます!

重文 伎楽面 力士

10月27日(金)〜通年

第3室

法隆寺宝物館

屏風に貼られていた貴重な仏画

「法隆寺伝来の仏画群」

10月17日(火)〜11月5日(日)

第6室



千手観音二十八部衆像
鎌倉〜南北朝時代・14世紀
保存状態が良く、仏画には珍しく細部まで鮮明に見ることができます

今回展示する仏画群は、もとは仏画と写経の断簡を貼り付けた、仏画写経貼交屏風に貼られていたものです。鎌倉時代から江戸時代の幕末頃のものまで幅広い時代の作例12件を展示します。なかでも千手観音二十八部衆像は精緻な描写と鮮やかな色彩が美しい作品です。また、片足を踏み下げて蓮台に坐した阿彌陀如来による来迎図は、来迎図が定型化する以前の古態を示すといわれる滋賀・浄厳院の来迎図中の阿彌陀像と共通点が多く、その古様な表現が注目されます。

(沖松健次郎)

黒田記念館

「大に幸福を感じて」描いた作品

寺尾寿博士像

11月5日(日)

黒田記念室

描かれているのは天文学者の寺尾寿(1855〜1923)。パリ大学に留学した後、東京大学で天文学を講じ、東京天文台(現在の国立天文台)の初代台長を務めるなど日本の天文学の基礎を築いた人物です。

黒田清輝は自身がパリへ留学する以前に、この天文学者からフランス語の手ほどきを受けたことがあります。その後、20年以上を経て恩師の肖像画制作の依頼を受けた黒田は「大に幸福を感じた」と語っています。洋画界の第一人者だった黒田は、その生涯に多くの肖像画を依頼されて描いていますが、なかでも和やかな空気に包まれた本作品は、モデルとの親密さがかよわせた優品といえるでしょう。

(東京文化財研究所・塩谷純)



寺尾寿博士像
黒田清輝筆 明治42年(1909)
第3回文展にも出品された、黒田清輝の自信作

1000年後の未来に バトンタッチ!

保存と修理情報 43

金銅仏のクリーニング

10月15日(日)まで

展示中の特集「チベ

ット仏像と密教の世

界(→5ページ)の

金銅仏は、長年のほ

こりやよこれが原因

で全体が白っぽくな

り鑑賞の妨げになっ

ていたため、今回の

展示を機にクリーニ

ングを行いました。

金属性なので、錆な

いように注意しなければなりません。

また、部分的に彩色や宝石の装飾があ

るため、全体を溶剤につけるようなク

リーニングもできません。そこで、今

回は、竹串にコットンを巻き付けて綿

棒を作り、形にあわせて丁寧にふき取

る作業方法を選択しました。金属へ

影響の少ないイオン交換水を使用し、

綿棒に付着してくるよこの状態を

みながら進めます。その後は、エタノ

ールやアセトンでよこれを拭き取り、

表面に錆の原因となる水分が残らな

いように仕上げました。(野中昭美)



綿棒でよこれをふき取ります

11月

展示案内

- 1-1: 日本美術のあけぼの—縄文・弥生・古墳
 1-2: 仏教の興隆—飛鳥・奈良
 2: 国宝室
 3-1: 仏教の美術—平安～室町
 3-2: 宮廷の美術—平安～室町
 3-3: 禅と水墨画—鎌倉～室町
 4: 茶の美術
 5-6: 武士の装い—平安～江戸
 7: 屏風と襖絵—安土桃山・江戸
 8-1: 暮らしの調度—安土桃山・江戸
 8-2: 書画の展開—安土桃山・江戸
 9: 能と歌舞伎
 10: 浮世絵と衣装—江戸

- 11: 彫刻
 12: 漆工
 13-1: 金工
 13-2: 刀剣
 13-3: 陶磁
 14: 特集
 15: 歴史の記録
 16: アイヌと琉球
 (17: 保存と修理)
 18: 近代の美術



-10/29日

牛図屏風

森徹山筆
江戸時代・19世紀
動物を得意とした徹山。銀地に映える写実的で迫力満点の牛に注目!

(部分)



10/31日-12/17日

秋冬山水図屏風

円山応挙筆 江戸時代・18世紀
写生を重視しつつ中国の伝統絵画もよく学んだ応挙の到達点の一つです

-10/22日

草花蒔絵菓子器

谷田忠兵衛作 江戸時代・18世紀
伊藤甲子之助氏寄贈
作者は徳島藩主蜂須賀重喜の御用を勤め、彩り豊かな作風で知られます

10/24日-2018/1/28日

原志野鶴鶴文鉢

美濃
安土桃山～江戸時代・16～17世紀



10/3日-11/12日

清水寺縁起絵巻 巻中

絵:土佐光信筆、詞:三条実香・甘露寺元長筆
室町時代・永正14年(1517)

京都・清水寺の本尊千手観音像の霊験あらたかなお話を描きます



11/14日-12/25日

星光寺縁起絵巻 巻上

室町時代・15世紀

京都にあった星光寺の地藏菩薩像の由来などを描く絵巻です



10/3日-11/12日

芭蕉夜雨図

太白金玄等十四名賛 室町時代・応永17年(1410)
絵に多数の禅僧たちが漢詩文を書き寄せた詩画軸の代表作です

11/14日-12/25日

南院国師忌拈香偈

清拙正澄筆
南北朝時代
延元2年(1337)



南院国師忌拈香偈



-12/25日

青井戸茶碗 土岐井戸

朝鮮 朝鮮時代・16世紀
広田松繁氏寄贈
轆轤(ろくろ)目のくっきりした胴、高台近くに一筋流れる釉が見どころです



織部扇形向付

美濃 江戸時代・17世紀

-11/26日

太刀 銘 助真

鎌倉時代・13世紀

沃懸地葵紋蒔絵螺鈿打刀(●太刀 銘 助真の拵)

江戸時代・19世紀

紀州徳川家伝来の太刀で、江戸時代の豪華な刀装も展示します



11/21日-2018/2/12日・祝

白糸威二枚胴具足

江戸時代・17世紀
徳川義寛氏寄贈
尾張徳川家初代・徳川義直(1600～50)の所用と伝える具足です



本館 2F:1~10



-12/25日

埴輪 盛装の男子

群馬県太田市 四ツ塚古墳出土
古墳時代・6世紀

壺形土器

大阪府柏原市 藤井寺市
船橋遺跡出土
弥生時代(中期)・前2～前1世紀
田村淳正氏寄贈

櫛描簾状文(くしがせんじょうもん)が施されたこの壺には、弥生人のリズムが直に刻まれています



10/3日-11/12日

大方等大集經菩薩念仏

三昧分 巻第十

奈良時代・8世紀
松永安左工門氏寄贈

仏が目の前にあらわれ出るよう瞑想する「念仏三昧」の成就を説いています

11/14日-12/25日

四分戒本并序

奈良時代・神護景雲2年(768) 堀達氏寄贈

称徳天皇が発願した奈良時代後期を代表する一切経のうちの一巻。美しい色紙経です



-10/22日

法華経一品経 妙莊嚴王本事品(慈光寺経)

鎌倉時代・13世紀
埼玉・慈光寺蔵
金銀切箔、砂子散らしの料紙に、金銀泥の芦手絵・文字を配しています

(部分)

10/24日-11/19日

十六羅漢像

(第八尊者・第十二尊者)

平安時代・11世紀

→7ページ



(第八尊者)



11/21日-12/25日

元暦校本万葉集

巻七・巻十九(古河本)

平安時代・11世紀

平安時代に書写された『万葉集』。十数人が寄合書きをしています

(巻七)

11/14日-12/25日

孔子像

伝栗田口隆光筆
室町時代・15世紀

室町時代のやまと絵師・栗田口隆光筆の伝承をもつ、数少ない中世の孔子像の一つです



(部分)

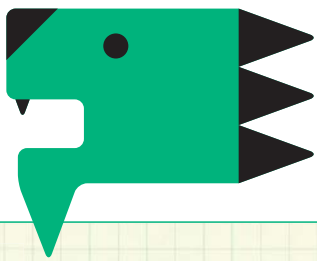
10/3日-11/12日

釈迦三尊像

南北朝～室町時代
14～15世紀

鉢を持った珍しい姿の釈迦三尊像。中国風の強い表現も特徴です





みどりのライオン

みんなで楽しむ教育スペース
EDUCATION CENTER 教学中心 교육센터

教育普及事業

ART
1

知る楽しみ、学ぶ喜び

講演会・ギャラリートーク・ガイダンス

講演会

月例講演会「甲冑入門」

日時：10月21日(土) 13:30~15:00

講師：池田宏（客員研究員）

室町時代から江戸時代の甲冑の種類や特色についてお話しします。

月例講演会「室町時代のやまと絵」

*関連展示：本誌6ページ

日時：11月4日(土) 13:30~15:00

講師：土屋貴裕（特別展室主任研究員）

前代の伝統を引き継ぎつつも、革新性をそなえた室町時代のやまと絵。その豊かな表現世界とともに、これらを描いたやまと絵師たちの画業をたどります。

*会場は平成館大講堂、定員380名、聴講無料（ただし、当日の入館料が必要）

*開場は開始の30分前（予定）

かぶと
兜を
かぶるところ！



ギャラリートーク

明治時代の日本美術史編纂

*関連展示：本誌7ページ

日時：10月3日(火) 14:00~14:30 本館15室

講師：三輪紫都香（百五十年史編纂室アソシエイトフェロー）

『稿本日本帝国美術史』は明治時代に刊行された美術史で、帝国博物館（当館の前身）が編纂しました。この頃の博物館の活動と併せて紹介します。

中世の水墨山水画

日時：10月13日(金) 18:30~19:00

本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)

講師：救仁郷秀明（列品管理課長）

詩画軸山水から周文様式へと展開する水墨山水画の歴史と魅力についてお話しします。

運慶前夜：平安時代後期の仏像について

日時：10月31日(火) 14:00~14:30 平成館大講堂

講師：皿井舞（絵画・彫刻室主任研究員）

平安時代後期に流行した仏像のかたちについてお話しします。「運慶」展（→2ページ）で鎌倉時代の仏像を堪能した方にも、優美な平安後期の仏像がお好きな方にもお楽しみいただけます。

高麗の英雄・崔忠献

*関連展示：本誌8ページ

日時：11月14日(火) 14:00~14:30 東洋館10室

講師：白井克也（考古室長）

軍人たちの争いをおさめて政治を安定させた崔忠献について、彼の墓誌を中心に解説します。

中国書画精華—日本人のまなざし—

*関連展示：本誌6ページ

日時：11月28日(火) 14:00~14:30 東洋館8室

講師：富田淳（学芸企画部長）

日本美術にも大きな影響を与えてきた中国書画の名品がいつごろ日本に伝えられ、日本人がどのように受け入れてきたかを紹介します。

東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートーク

紅型ができるまで

10月3日(火)・10日(火)・17日(火) 各回15:30~15:50

解説：山田麻緒、大小田万侑子、月村紀乃 本館19室

本館19室 みどりのライオンで展示中の工程見本を制作するにあたり、調査や復元を通してわかった技法や表現について、制作を担当した藝大生がお話しします。



鮮やかな色の
秘密とは？



ART
2

五感を使った美術体験

ワークショップ・ツアー

ワークショップ

日本文化との出会い「きもの体験」

日本の伝統衣装を着て記念撮影ができます。きものにこめられた美意識や、生活文化を感じてください。

日時：10月24日(火)~11月5日(日)

火・水・木・日曜日、11月3日(金・祝) 11:00~16:30

金・土曜日(11月3日(金・祝)を除く) 15:00~20:30

*当日受付。受付は会場で、終了時間の30分前まで

*体験は一人1着

会場：本館特別4室 定員：各日 30名（先着順）

参加費：500円（ただし、高校生を除く18歳以上70歳未満の方は、別途当日の入館料が必要）

協力：ハクビ京都きもの学院

お問合せ：TEL 03-3822-1111(代) 教育普及室

日本文化との出会い「書体験」

日本文化を代表する「書」に親しむ第一歩。トーハク所蔵の国宝「賢愚経（大聖武）」をお手本に、きれいな色紙に一文字、筆ペンで書いてみましょう。

日時：11月7日(火)~11月30日(木)

火・水・木・日曜日 11:00~16:30

金・土曜日 15:00~20:30

*当日受付。受付は会場で、終了時間の30分前まで

会場：本館2階ラウンジ 定員：各日200名（先着順）

参加費：100円（ただし、高校生を除く18歳以上70歳未満の方は、別途当日の入館料が必要）

お問合せ：TEL 03-3822-1111(代) 教育普及室



*事前申込プログラムにお申し込みいただいた方には、当落に関わらずご連絡します。

実施日の3日前までに受講可否の返答がない場合は、通信トラブルの可能性もありますので、各申込先に電話でお問合せください。TEL:03-3822-1111(代)

*各種催し物にご応募の際に提供いただいた個人情報、当該の目的のみ使用させていただきます。終了後はすみやかに破棄します。

*インターネットからのお申込みができない方は、お電話でお問合せください。

*📍は「ヒアリンググループ」対応のイベントです。

あなたの鑑賞をサポート

ボランティアによる事業

事前申込制 [往復はがき、ウェブサイトフォーム]

アートスタジオ

子どもの勾玉作り

平成館考古展示室にある勾玉を見学した後に、滑石を加工してオリジナルの勾玉を制作します。完成作品はお持ち帰りいただけます。

日時：12月3日(日) 13:30~15:30

会場：本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)

対象：小学3年生~中学生(保護者の見学可)

定員：20名程度(応募者多数の場合は抽選)



参加費：無料(ただし、高校生を除く18歳以上70歳未満の方は当日の入館料が必要)

申込方法：当館ウェブサイトのフォームが往復はがきでお申込みください。往復はがきの場合は、「往信用裏面」に(1)参加者全員(2名まで)の氏名・ふりがな、お子さんの学年、(2)参加者の郵便番号・住所(2名の場合はそれぞれ)の住所、(3)代表者の電話番号、(4)保護者が一緒の場合はその人数を、「返信用表面」に代表者の郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記申込先にお送りください。

申込締切：11月6日(月) 必着

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館ボランティア室「12月3日勾玉作り」係

お問合せ：TEL 03-3822-1111(代) ボランティア室



東博ボランティアデー 2017

12月1日(金)・2日(土)に「東博ボランティアデー」を開催します。お客様にトーハクでの時間を「より楽しく」「より快適に」過ごしていただくために、当館では、約150名のボランティアが活動しています。ボランティアデーでは、2日間にわたり、ボランティアによるさまざまな催しを行います。トーハクをもっと楽しみたい方、博物館のボランティアに興味がある方はぜひご参加ください。2日間のスケジュールは以下のとおりです。



◆ボランティア活動紹介ツアー

現役ボランティアが活動現場をめぐり、ご案内します。トーハクのボランティア活動に興味をもっている方は、やりがいなども直接ボランティアに聞けるチャンスです。

時間：10:30~11:30、12:30~13:30(随時受付、ツアー時間は30分程度)
受付：本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)

◆ボランティア募集説明会

ボランティアに応募をお考えの方に、当館ボランティアの趣旨と概要、応募方法について職員が説明します(応募に際し、参加必須ではありません)。

時間：両日とも10:00~10:30、12:00~12:30、16:00~16:30(すべて同内容)
会場：本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)

◆ボランティアによるガイドツアー

12月1日(金) 考古展示室ガイド、庭園茶室ツアー、たてもの散歩ツアー、樹木ツアー、本館ハイライトツアー、法隆寺宝物館ガイド、彫刻ガイド

12月2日(土) 浮世絵ガイド、お茶会、樹木ツアー、英語ガイド、東洋館ツアー、刀剣・武士の装いツアー、近代の美術ガイド、陶磁ガイド、本館ハイライトツアー、彫刻ガイド、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド

※ガイドツアーの集合場所、時間などの詳細は本誌次号カレンダー(16ページ)、チラシ、当館ウェブサイト、当日の館内案内をご覧ください。

※ボランティアデーの催しは、お茶会を除いて参加無料。ただし、高校生を除く18歳以上70歳未満の方は当日の入館料が必要。

※お茶会(先着15名)、庭園茶室ツアー(先着18名)は当日9:30から、集合場所で整理券を配布。

お問合せ：TEL 03-3822-1111(代) ボランティア室

平成30年度ボランティア募集のお知らせ

平成30年(2018)4月から3年間の任期で活動するボランティアを約50名募集します。東博ボランティアデーでは、募集説明会を行いますので、お気軽にご参加ください(高校生を除く18歳以上70歳未満の方は当日の入館料が必要)。応募受付は、12月11日(月)~2018年1月11日(木)です。あなたもトーハクでボランティアをしてみませんか? 詳細は、当館ウェブサイトでご案内します。

お問合せ：TEL 03-3822-1111(代) ボランティア室



教育普及室ってどんなお仕事してるんだほ?



教育普及室の
藤田千織室長へ

修学旅行生や観光客など、来館した方が博物館を楽しむための教育普及室の仕事について、室長の藤田さんにインタビューしてきました。

活動の2本柱は「スクールプログラム」と「ワークショップ」

◆スクールプログラムってなんだほ?

学校から来る小学生から高校生向けのプログラムです。レクチャーや職場体験など全部で15種類あります。毎月20校くらいの生徒さんに対応しています。

プログラムの内容はどうやって決めるんですか?

事前に先生と相談し、人数や希望の内容をきいて決めます。

お話をきいてただけだと眠くなるほ...

確かにそんな生徒さんも(笑)。元気なグループも大人しいグループもあるので、みんなに楽しんでもらえるよう話し方を工夫しています。

学校の授業につながるお話もありますか?

高校生は、東洋館で世界史の勉強、歴史の勉強をはじめ小学生には、考古展示室で縄文土器や埴輪をみてもらうなど、学年に合わせた内容も用意しています。なかには、修学旅行で京都や奈良に行く前に仏教美術を学びに来る学校もあるよ。



中学校の生徒さんたちへのレクチャー
(本館地下の「みどりのライオン」にて)

みんな勉強熱心だほ。ほくは学校に行っていないし、楽しく遊びたいほ。

誰でも参加できるワークショップもやっていますよ。

前に、書道の体験をやっていて楽しそうでした。何をやるかはどうやって思いつくんですか?

「書体験」ね。お正月に配布したワークシートで、日本語が分からないお客様も漢字を書くことを楽しんでもらったので、ワークショップに発展させたの。今年の夏に行った、親子のギャラリー「びょうぶとあそび」という展示企画も、年に何回か行っている「屏風体験!」ワークショップから思いついたのよ。

プログラムは進化するんだほー

展示室にあるものは、最初からガラスケースの中にあっただけじゃなくて、いろいろな人が大切にしてきたもの。身近に感じて、小さい子どもから大人までみんなトーハクを楽しんでほしいな。



「書体験」は、日本語を読めない外国の方も楽しめます(→12ページ)



親子のギャラリーで配布するパンフレットも教育普及室が制作。配布ラックへの補充を行う時も

この他、展示室ガイドアプリ「トーハクナビ」や音声ガイドの制作、また展示「親子のギャラリー」など、教育普及室は来館者向けのプログラムに関わる多様な場面で活躍しています!



プレミアム・フライデー@トーハク

10月「トークサロン① 考古学への招待—縄文 vs 弥生—」

日時：10月27日（金） 19:00～20:30

講師：井上洋一（副館長）×小林牧（博物館教育課長）

11月「トークサロン② 中国書画精華—日本人のまなざし—」

日時：11月24日（金） 19:00～20:30

講師：富田淳（学芸企画部長）×小林牧（博物館教育課長）

食事とともにトークをお楽しみいただき、後半は展示室へご案内します。

定員：20名（ローチェHMV [ローソチケット] で10月3日（火）よりチケットを販売、なくなり次第終了）

料金：2,000円（税込）

*当日はイベントチケットで総合文化展をご覧いただけます。

*詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

Music Program TOKYO まちなかコンサート ～芸術の秋、音楽さんぽ～

都内文化施設の連携企画。当館では弦楽器四重奏をお楽しみください。

日時：10月28日（土） 15:00～、17:00～（各回20分）

会場：本館大階段 料金：無料（ただし、当日の入館料が必要）

出演：吉江美桜（ヴァイオリン）、水野優也（チェロ）、菊野源太郎（ヴァイオリン）、島方瞭（ヴィオラ）

主催：東京都／東京文化会館・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

お問合せ：東京文化会館事業企画課 03-3828-2111 *土・日曜、祝日は除く

「創エネ・あかりパーク® 2017」開催に伴う夜間開館

上野公園での恒例イベント実施に伴い、当館も夜間開館を行います。

夜間開館：11月2日（木）～4日（土） 21:00まで開館（入館は20:30まで）

*本館への特別プロジェクション（展示の名品を投影）は11月1日（水）～4日（土）

主催：「創エネ・あかりパーク2017」実行委員会

休館情報

下記の展示館を一時休館します。

東洋館：12月11日（月）～2018年1月1日（月・祝）[展示環境整備のため]

11月3日（金・祝）は「留学生の日」

日本の学校に所属する留学生、ALT（外国語指導助手）およびその同行者は総合文化展が無料となります。入館の際には学生証をご提示ください。

＜イベントスケジュール＞

○「日本美術の流れ」英語ガイド 11:00～12:00、15:00～16:00

本館2階の展示作品を、ボランティアが英語で紹介します。

○各種ガイドツアー

やさしい日本語で行います。詳細はウェブサイトをご確認ください。

○研究員によるギャラリートーク 12:00～12:30

講師：ミウオシュ・ヴォズニ（国際交流室アソシエイトフェロー）

会場：本館地下 みどりのライオン（教育普及スペース）

○留学生のためのお茶会（応挙館） ①11:00～12:00 ②13:00～14:00

定員：各回15名

参加方法：①②とも9:30より本館前受付にて整理券配布 参加費：500円

○留学生のためのお茶体験（九条館） 11:00～15:00

定員：200名（先着順。入替制、1回あたり20分程度）

参加方法：当日、直接九条館へお越しください 参加費：300円

「ゆるキャラ® グランプリ2017」に エントリー中！

トーハクくんとユリノキちゃんが「ゆるキャラ® グランプリ2017」にエントリー（No.195）。投票は11月10日（金）18:00まで。1日1回まで投票できます。



東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会制度を設け、当館の活動を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・総合文化展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同をいただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年（入会月の翌年同月末日まで）有効。

◎年会費

〈団体〉プレミアム会員 1,000万円以上

特別会員 100万円（1口）

維持会員 20万円

〈個人〉プレミアム会員 100万円以上

特別会員 20万円／維持会員 5万円

◎主な特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付

◎申込方法

当館窓口のほか、当館ウェブサイト（クレジットカード決済）、銀行振込で随時受け付けています。

◎お問合せ

東京国立博物館総務部 賛助会担当
電話 03-3822-1111（代）

東京国立博物館賛助会員 2017年8月16日現在

特別会員

日本電設工業株式会社様
株式会社 コア様
大日本印刷株式会社様
毎日新聞社様
株式会社 大林組様
朝日新聞社様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ様
株式会社 ミロク情報サービス様
読売新聞社様
三菱商事株式会社様

個人

プレミアム会員 上久保のり子様
岩間 良孝様
特別会員 長谷川 英樹様
永久 幸範様
辻 泰二様
谷川 紀彦様
佐久間 基晴様
田中 将介様
井田 悦郎様
大山 孝良様
維持会員 伊藤 信彦様
飯内 匡人様
服部 悦子様
岩沢 重美様
高田 朝子様
齋藤 京子様
齋藤 裕祐様
和田 喜美子様
藤原 紀男様
中川 俊光様
関谷 徳衛様
高橋 守様
小澤 桂一様

維持会員 団体

株式会社 三冷社様
株式会社 東京美術様
日本通運株式会社 美術品事業部様
株式会社 安井建築設計事務所様
株式会社 ナガホリ様
松本建設株式会社様
株式会社 古美術数本様
謙慎書道会様
近代書道研究所様
日本畜産興業株式会社様
株式会社 東京書芸館様

インフォコム株式会社様
学校法人 大勝院学園様
有限会社 システム設計様
株式会社 インターネットインシアティブ様
株式会社 小西美術工芸社様
有限会社 ギャラリー竹柳堂様
株式会社 育仲社様
株式会社 モリワタ様
アミ開発有限会社 名古屋支店様
光村図書出版株式会社様
株式会社 資生堂様

株式会社 グラスバウハー・ジャパン様
株式会社 デュナミス様
キッコーマン株式会社様
公益社団法人 創玄書道会様
朝陽書道会様
一般社団法人 書芸文化院様
株式会社 精養軒様
株式会社 都市環境企画様
全日本空輸株式会社様
株式会社 清光社様
一般社団法人 学士会様

公益財団法人 書道芸術院様
アズビル株式会社様
セコム株式会社様
株式会社 ニッセイコム様
金剛株式会社様
株式会社 ロイスダール様
株式会社 岡村製作所様
株式会社 GIC ジャパン様
公益財団法人 アダチ伝統文化版
技術保存財団様
エクスロン・インターナショナル株式会社様

夏の美術作品調査

美術作品の調査や撮影と聞くと、どのようなイメージをおもになりますか。優雅？ いえいえ、だいたい過酷です。7月、梅雨明け宣言の直後、2019年1月開幕の特別展「仁和寺と御室派のみほとけ」(→2ページ)に向けて、研究員チームが仁和寺にて調査・撮影を行いました。空調設備のない収蔵庫のなか、熱い空気がまとわりつき、とめどなく汗が噴き出します。写真は撮影の様子です。暑さが伝わりますでしょうか？ そんなわけで、夏場の調査には熱中症対策が必須。塩飴、首にあてる冷却ネッククーラー、汗ふきシートは必携です。(皿井舞)



特別展「仁和寺と御室派のみほとけ一天平と真言密教の名宝」チケットプレゼントまたはトーハクくんから年賀状が届きます

特別展「仁和寺と御室派のみほとけ一天平と真言密教の名宝」(2018年1月16日(火)～3月11日(日)→2ページ)の無料観覧券(10組20名様)をプレゼント。または2018年のお正月にトーハクくんから年賀状(10名様)が届きます。締切は12月10日(日)必着。

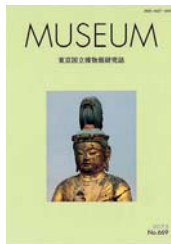
*プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、ご希望のプレゼント(チケットまたは年賀状)ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 広報室「ニュース10・11月号」プレゼント係



『MUSEUM』669号(2017年8月15日発行)の掲載論文

- ①「大仙院障壁画と狩野之信一書院の間の障壁画・中国故事人物図一」松本寛(美術史家)
 - ②「東京帝室博物館刊行の『桜の図譜』と天産課で企画された『日本桜花図譜』について」田中純子(練馬区立牧野記念庭園記念館学芸員)
 - ③『調査報告』真如苑真澄寺所蔵大日如来坐像のX線断層写真(CT) 調査報告丸山士郎(当館特別展室長)
- お問合せ：当館ミュージアムショップまたは
中央公論事業出版(TEL: 03-5244-5723)
定価：1,543円(税込)



TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

VR作品『DOGU 縄文図鑑でめぐる旅』～11月5日(日)

約1万3千年前から1万年ほど続いた縄文時代、人々はどうな生活をしていたのでしょうか？ 文字もない縄文時代の生活を知るためには、土の中から出てきた土器や石器、そして土偶を調べ、想像力を働かせることが必要です。シアターで考古学者ならではのとおきの楽しみ方をご紹介します。一緒に展示室をもっと楽しんでみませんか。さあ、縄文図鑑を開いて、縄文時代への旅へと出かけましょう。



料金：一般・大学生・高校生500円、小学生・中学生300円

- *未就学児、障がい者とその介護者1名は無料(1作品/1回あたり)
- *こどもウェルカムキャンペーン：～11月5日(日)は小・中学生は鑑賞無料です。
- *総合文化展とセット購入で一般：1,000円/大学生800円
- *所要時間は約40分です。鑑賞には当日の予約が必要です。
- *演目・スケジュールは都合により変更になる場合があります。
- *11月6日(月)～2018年1月1日(月・祝)まで、上演環境改善のため休演します。
- *詳細はウェブサイトをご覧ください。URL <http://www.toppa-vr.jp/mf/>

東京国立博物館利用案内

開館時間：

- 9:30～17:00(入館は閉館の30分前まで)
- 総合文化展は金・土曜日および11月2日(木)は21:00まで
 - いずれの場合も黒田記念館は17:00まで

休館日：

- 月曜日(祝日・休日に当たる場合は開館、翌平日休館)
年末年始
(12月26日(火)～2018年1月1日(月・祝))
- 10月10日(火)、12月25日(月)、2018年3月26日(月)は開館
 - 12月12日(火)は電気設備等保守点検のため、臨時休館
 - 黒田記念館特別室の開室は10月31日(火)～11月12日(日)、2018年1月2日(火)～1月14日(日)、2018年3月26日(月)～4月8日(日)

*特別展等の開催に伴い、開館時間及び休館日は変更になることがあります。

総合文化展観覧料金：

- 一般＝620(520)円 大学生＝410(310)円
- ()内は20名以上の団体料金
 - 障がい者とその介護者1名は無料。満70歳以上、高校生以下および18歳未満の方は無料
 - 2017トーハク感謝day(12月23日(土・祝)・24日(日)・25日(月))は、総合文化展のみ無料

最新情報は、ウェブサイト、Facebook、Twitter、Instagram、メールマガジンで！
東京国立博物館ウェブサイト
<http://www.tnm.jp/>

東京国立博物館会員制度(2017年4月からの新制度)

東京国立博物館では、皆様のニーズに合わせて各種会員制度をご用意しております。

友の会

発行日から1年間有効
年会費 8,000円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展観覧券を6枚配布、本誌の定期購読、ショップ、レストラン割引等様々な特典があります。

メンバーズプレミアムパス

発行日から1年間有効
年会費 一般5,000円、学生3,500円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展観覧券を4枚配布します。

国立博物館メンバーズパス(4館共通)

発行日から1年間有効
年会費 一般2,000円、学生1,000円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。

ニュース会員

東京国立博物館ニュースの定期購読
年会費 1,000円(6冊分)

【特典】年6回東京国立博物館ニュースをご自宅に送付いたします。メンバーズプレミアムパスとの同時申し込みで100円割引。

*次号よりご送付希望の場合、締切は11月10日(金)です。

〇申込方法

1. 会員専用窓口

当館正門前の会員専用窓口で即日発行いたします(現金またはクレジットカード)。

2. ウェブサイト

専用申込フォームからお申し込みください(クレジットカードまたは郵便振替(振替用紙を送付))。

3. 郵便振替

●振替用紙に①種別(友の会、プレミアムパス、4館共通、ニュース)、②区分(一般、学生)③氏名(ふりがな)、④郵便番号、⑤住所、⑥電話番号、⑦年齢、⑧性別、⑨メールアドレス(メールマガジン希望者のみ)を通信欄にご記入の上、下記口座までお振替ください。

加入者名：東京国立博物館会員制度

口座番号：00140-3-791791

- 振込用紙の半券が領収書になります。有効期限終了まで保管してください。
- 振替手数料はお客様負担となります。
- ご入金確認日より会員証等がお手元に届くまで2週間程度かかります。

*一度収められた料金の払い戻しはいたしません。
*各種イベントのお申込みに際してご提供いただいた個人情報、当該目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

〇お問合せ

電話 03-3822-1111(代)総務課会員制度担当

*月曜～金曜日の9:30～17:00(土日・祝日は除く)

FAX 03-3821-9680

1日	【運慶】「興福寺と運慶―特に北円堂の諸像をめぐって―」13:30 平成館大講堂 作 13:30 考 14:30	特別展「運慶」 フランス人間国宝展 博物館でアジアの旅
2月	休館日	
3日	建 11:00 G「明治時代の日本美術史編纂」14:00 本館 15室 藝「紅型ができるまで」15:30 本館 19室	
4日		
5日	東 11:00	
6日	夜間開館(21:00まで) 法 15:00	
7日	夜間開館(21:00まで) 樹 11:00 本 14:00 ♥ 11:00、13:00、15:00	
8日	トーハクくん誕生日 近 13:00 浮 14:00 彫 15:00 ♥ 11:00、13:00、15:00	
9日	ユリノキちゃん誕生日	
10日	藝「紅型ができるまで」15:30 本館 19室	
11日		
12日	庭 11:00	
13日	夜間開館(21:00まで) 英 14:00 G「中世の水墨山水画」18:30 本館地下教育普及スペース	
14日	夜間開館(21:00まで) 陶 14:30	
15日	東 11:00 英 11:00 茶 11:00、13:00 浮 14:00 考 14:30	
16日	休館日	
17日	藝「紅型ができるまで」15:30 本館 19室	
18日		
19日	彫 15:00	
20日	夜間開館(21:00まで) 樹 11:00	
21日	夜間開館(21:00まで) 建 11:00 講「甲冑入門」13:30 平成館大講堂 本 14:00 法 15:00	
22日	法 13:00 彫 15:00	
23日	休館日	
24日	W「きもの体験」11:00～16:30 本館特別4室	秋の庭園開放
25日	建 11:00 W「きもの体験」11:00～16:30 本館特別4室	
26日	W「きもの体験」11:00～16:30 本館特別4室 本 14:00	
27日	夜間開館(21:00まで) W「きもの体験」15:00～20:30 本館特別4室 ★「トークサロン① 考古学への招待」19:00	
28日	夜間開館(21:00まで) 【運慶】「運慶展 最新調査報告」13:30 平成館大講堂 刀 13:30 W「きもの体験」15:00～20:30 本館特別4室 ♪「まちなかコンサート」15:00、17:00 本館大階段*1	
29日	W「きもの体験」11:00～16:30 本館特別4室 ♪「アジアの伝統楽器によるコンサート 東方音楽絵巻」14:00 平成館大講堂*2	
30日	休館日	
31日	W「きもの体験」11:00～16:30 本館特別4室 G「運慶前夜:平安時代後期の仏像について」14:00 平成館大講堂	

1日	W「きもの体験」11:00～16:30 本館特別4室	創エネ・あかりパーク@2017
2日	夜間開館(21:00まで) 東 11:00 W「きもの体験」11:00～16:30 本館特別4室	
3日	夜間開館(21:00まで) 留学生の日 W「きもの体験」11:00～16:30 本館特別4室 法 15:00	
4日	夜間開館(21:00まで) 樹 11:00 講「室町時代のやまと絵」13:30 平成館大講堂 本 14:00 W「きもの体験」15:00～20:30 本館特別4室 ♥ 11:00、13:00、15:00	
5日	W「きもの体験」11:00～16:30 本館特別4室 作 13:30 考 14:30	
6日	休館日	
7日	建 11:00 W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ	
8日	W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ	
9日	庭 11:00 W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ	
10日	夜間開館(21:00まで) 英 14:00 W「書体験」15:00～20:30 本館2階ラウンジ	
11日	夜間開館(21:00まで) 陶 14:30 W「書体験」15:00～20:30 本館2階ラウンジ	
12日	W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ 近 13:00 浮 14:00 彫 15:00	
13日	休館日	
14日	W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ G「高麗の英雄・崔忠献」14:00 東洋館10室	
15日	W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ	
16日	W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ 彫 15:00	
17日	夜間開館(21:00まで) 樹 11:00 連続講座「日本における美術史学の誕生」13:30 平成館大講堂*3 W「書体験」15:00～20:30 本館2階ラウンジ	
18日	夜間開館(21:00まで) 建 11:00 連続講座「日本における美術史学の誕生」13:30 平成館大講堂*3 本 14:00 法 15:00 W「書体験」15:00～20:30 本館2階ラウンジ	
19日	東 11:00 英 11:00 茶 11:00、13:00 W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ 浮 14:00 考 14:30	
20日	休館日	
21日	W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ	
22日	建 11:00 W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ	
23日	W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ 本 14:00	
24日	夜間開館(21:00まで) W「書体験」15:00～20:30 本館2階ラウンジ ★「トークサロン② 中国書画精華」19:00	
25日	夜間開館(21:00まで) 刀 13:30 W「書体験」15:00～20:30 本館2階ラウンジ	
26日	W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ 法 13:00 彫 15:00	
27日	休館日	
28日	W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ G「中国書画精華―日本人のまなざし―」14:00 東洋館8室	
29日	W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ	
30日	W「書体験」11:00～16:30 本館2階ラウンジ (12/3まで)	

【運慶】＝特別展「運慶」関連事業(→2ページ) ★＝「プレミアム・フライデー@トーハク」(→14ページ) *1＝詳細は本誌14ページ *2＝有料イベント。詳細は当館ウェブサイト *3＝事前申込制。詳細は本誌前号12ページ ♥＝トーハクくん＆ユリノキちゃん登場日。場所は本館前

講＝月例講演会等、詳細は12ページ(特別展開連事業→2ページ)
G＝ギャラリートーク、詳細は12ページ
W＝ワークショップ、詳細は12ページ
♥＝託児サービス実施日(12:30～15:30)、事前予約制、有料
作＝ボランティアによるアートスタジオ、事前申込制、詳細は本誌前号13ページ(※10月1日(日)の申込みは締め切りました)
本＝ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所:本館エントランス
浮＝ボランティアによる浮世絵ガイド、集合場所:本館エントランス
陶＝ボランティアによる陶磁ガイド、集合場所:本館エントランス
彫＝ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所:本館エントランス
樹＝ボランティアによる樹木ツアー、集合場所:本館エントランス
考＝ボランティアによる考古展示室ガイド、集合場所:平成館考古展示室入口
英＝ボランティアによる英語ガイド(日本美術の流れ)、集合場所:本館エントランス

茶＝ボランティアによる応挙館での茶会、集合場所:本館エントランス(9:30から集合場所で整理券配布、参加費500円、先着15名)
庭＝ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所:本館エントランス(9:30から集合場所で整理券配布、先着18名)
建＝ボランティアによるたてもの散歩ツアー、集合場所:本館エントランス
近＝ボランティアによる近代の美術ガイド、集合場所:本館エントランス
刀＝ボランティアによる刀剣・武士の装いツアー、集合場所:本館エントランス
東＝ボランティアによる東洋館ツアー、集合場所:東洋館エントランス(10月は「仏像の旅」、11月は「東洋館ハイライト」)
法＝ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、集合場所:法隆寺宝物館エントランス
藝＝藝大大学院インターンによるギャラリートーク、詳細は12ページ
※屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。